



独立行政法人国立病院機構
小倉医療センター 広報誌

小倉医療センター だより

Kokura Medical Center

2026
vol. 04
SPRING

当院外来の正面玄関には、毎年ひな人形が飾られます。

約20年前に寄贈いただき、スタッフの手による一つ一つの飾り付けは、恒例行事になっています。

最近では、住宅環境によりこのような七段飾りを見かけなくなりました。立派なひな飾りは患者さん、ご家族だけでなく、スタッフにとっても時節を感じる行事になりました。

地域医療連携室 係長 甲斐 さおり



巻頭

新年度のご挨拶

診療科紹介 肝臓内科

令和8年度 医師異動 (4/1~)

病院理念 この街には、この病院があるから住みたいと思われるような病院を目指します。

新年度のご挨拶

院長 吉里俊幸



当施設の院長の吉里俊幸でございます。昨年度より院長職を拝命し、本年度で2年目を迎えるにあたり、新年度のご挨拶を申し上げます。

春を迎え、新人職員を新たに迎え入れるこの季節は、施設全体に自然と活気が満ち、私自身も身の引き締まる思いとともに、新たな可能性への期待を感じております。日々の診療や業務を支えていただいている職員一人ひとりの存在が、病院の力そのものであることを、改めて実感する時期でもあります。

当施設は昨年度、開設 150 周年という大きな節目を迎えました。これまで幾多の時代の変化の中で、地域医療を支え続けてこられたのは、先人の努力と、地域の皆さまから寄せられてきた信頼の積み重ねによるものです。その歴史に敬意を払いながら、私共は、新たな 151 年目の一步を踏み出しています。

本年度は、老朽化が課題となっている外来棟の一部改修を行います。さらに、当施設の大きな特色である周産期医療を一層充実させるため、MFICU（母体胎児集中管理室）6床の新設および NICU（新生児集中管理室）3床の増床（12床から15床へ）に向けた工事に着手する予定です。これは、地域で安心して妊娠・出産・子育てができる体制を、将来にわたって守り続けるための重要な取り組みであると考えています。

「この街にはこの病院があるから住みたいと思われるような」存在であり続けることが、私たちの目指す姿です。職員一同、互いに支え合いながら、地域にとってかけがえのない病院であり続けられるよう、力を尽くしてまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

新年度のご挨拶

副院長 高月浩



昨年度より副院長を務めております、高月浩でございます。自己紹介としては、北九州市小倉北区出身、小倉高等学校・九州大学卒、血液内科・総合内科専門医、当院では20年以上の勤務となります。

地域の先生方におかれましては日頃より、多数の患者様をご紹介いただき誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

当院は、「この病院があるから、この街に住みたい」と思われる病院を目指します」という理念のもと、今後も公的病院としての責務を認識し、地域医療に貢献する所存です。また診療としては、地域の中心となる周産期医療、小児医療、がん医療、高齢者医療等々を行う総合病院であります。基幹型臨床研修指定病院、地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院の指定を受け、将来ある若手医師の教育、妊婦さんと子供達の診療、地域医療支援の拠点として貢献しています。お知りおき頂きますと幸いです。

昨年度は病院診療及び管理をより発展向上させるため、外部機関による病院機能評価(3rdG,Ver3.0)を受審いたしました。半年以上にわたる全職員での多大な準備と厳しい審査を受審し、合格する予定となっております。先生方には安心してご紹介頂ける医療機関となっております。

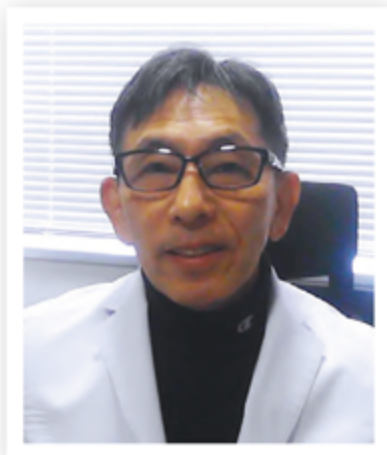
さて昨今は皆様もご承知のとおり、多くの医療機関が厳しい経営環境の中に置かれております。当院におきましても国立病院機構の一員として国の地域政策医療を担っている一方で、自治体病院とは異なり公的な交付金の支援を受けていないという状況にあります。公的医療機関ではありますが、実際の運営は独立採算を基本としており、限られた資源の中で日々の診療と病院運営を行っております。こうした当院の置かれている立場や背景につきまして、ぜひ皆様にもご理解を賜りたく存じます。

最後に地域の先生方へは、当院への患者様ご紹介にお礼申し上げますとともに、今後とも更なる皆様のご支援の程を宜しくお願い申し上げます。



新年度のご挨拶

統括診療部長 大野拓郎



新年度を迎えるにあたり、平素より当院の医療活動に対し格別のご理解とご支援を賜っておりますこと、心より御礼申し上げます。

さて、本年度は令和6年度から開始された第8次医療計画のもとで、地域の実情に即した医療体制構築に向けた取り組みが本格化する重要な年となります。人口減少と高齢化の進行、医療人材確保、働き方改革への対応など、医療を取り巻く環境は依然として厳しさを増しており、病院に対してはこれまで以上に明確な役割と持続可能な医療提供体制の実現が求められています。具体的には、地域完結型医療の深化を基本理念とし、医療機能分化・連携の実効性、急性期から回復期・慢性期・在宅医療への切れ目のない医療体制構築が目標となります。

近年の社会情勢に目を向けますと、2025年第四半期 GDP のプラス成長が見込まれ経済状況は回復基調にあり、2025年度決算において純利益へ上方修正するという日本企業の記事が非常に多く目に飛び込んできます。物価・人件費高騰が声高に叫ばれていますが他業種では対応が着実に進んでいる印象です。一方で、診療報酬が公定価格であり物価・人件費高騰の上乗せが許されない医療界においては全く逆方向へ動いており、数多くの医療機関が存続の危機に直面しています。実際 2024年度医業利益ベースで 73.8% の病院が赤字という結果でした。

2026年度は診療報酬改定の年であり、診療報酬本体の改定率が+3.09% となると報道され医療界に久々に良いニュースが飛び込みました。しかし、各医療機関にどれだけ実効性のある手当となるかは不透明な状況で安心はできません。また、2040年問題を見据えた病院機能分化・地域連携への診療報酬体制からの誘導推進が加速していく事が予測されます。このような厳しい状況の中でも「医療を求める方々に親身に寄り添い、地域の皆様に信頼される医療機関として質の高い医療サービスの提供する」という理念を忘れることなく、診療の質の向上・チーム医療の推進・医療安全の強化・地域医療機関との連携強化という当たり前のことを粛々と推し進め、当院の価値を高めることでしか生き残る道はないと考えます。我が病院の今後の歩みに少しでも貢献できるように専心鋭意努力して参りますので、皆様のご支援とご指導を賜りますよう今後とも引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

地域における病院満足度向上の きっかけの1年に！

事務部長 丸山誠二



日頃より小倉医療センターの運営に対し、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、昨年は当院にとって大きな出来事が二つありました。一つ目は吉里院長が就任されたこと、もう一つは当院が「創立150周年」を迎えたことです。

吉里院長の「今までの伝統に新たな伝統を加え、地域医療に貢献できる病院を目指したい」という思いに、なんとか応えていきたいと日々考えています。

病院を取り巻く環境の変化として、新たに発足した内閣の方針である「積極財政」に基づき、令和8年度の診療報酬改定はプラス改定となる見込みであり、特に医療機関で働く方々の質上げを後押しする内容となっています。

そのような状況の中、当院における最大の懸案事項は「外来棟の建て替え」です。しかし経営的な観点から、現時点では具体的な見通しを立てるまでには至っておりません。とはいえ、現在の医療業界の状況や新地域医療構想を踏まえると、「地域から選ばれる病院」となるための努力は欠かせません。

そこで「地域における病院満足度の向上」を最大のミッションとして掲げ、令和8年度からいくつかの取り組みを進めて参ります。まず、当院の特色である地域周産期母子医療センターの機能向上として、NICUの増床とMFICU(母体・胎児特定集中治療室)の整備工事を開始します。次に、長年の課題である「外来棟」については、全面的な建て替えには至らないものの、待合室の改修、椅子の更新、患者さん用トイレの改修整備を行うとともに、救急外来についても一部リニューアルします。さらに、各病棟の特別室(個室)についてもリニューアルを計画しています。

今回の取り組みの大前提は、「健全な経営なくして新たな挑戦はできない」ということです。

職員一丸となって様々な工夫を凝らし、まずは「健全な経営」を堅持した上で、最終的には「地域における病院満足度」の向上を実現したいと考えています。

引き続き、小倉医療センターへのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

新年度のご挨拶

看護部長 山下美香



令和7年4月より、NHO 小倉医療センターの看護部長として着任いたしました山下美香と申します。着任以来、地域の皆さま、そして職員の皆さまに温かく迎えていただき、心より感謝申し上げます。当院は「この街にはこの病院があるから住みたいという病院をめざします」という理念のもと、地域に根ざした医療の提供を続けてまいりました。私自身、この理念を実現していくうえで、看護が果たす役割はますます大きくなっていると感じています。地域のニーズが多様化するなかで、求められる医療・看護も変化し続けています。その変化に丁寧に向き合い、患者さんをご家族が安心して療養できる看護を提供することを、看護部の大切な使命と考えています。また、看護職一人ひとりが持つ経験や強みは、日々のケアの質を高めるだけでなく、患者さん・ご家族を通して地域へと広がっていく力でもあり

ます。当院の看護がその方らしい生活を支える一助となり、その積み重ねが地域全体の安心につながっていく、そんな「看護の循環」を大切にしながら、職員の持ち味を伸ばし、地域に還元できる看護部づくりを進めていきたいと考えています。チーム医療が重視される今、小倉医療センターが一つのチームとして協働することはもちろん、小倉地域や北九州市という大きなチームの一員として、地域のみなさまとともにより良い医療・看護を育んでいきたいと思っています。

これからも、地域の皆さまとともに、病院全体そして看護部が成長し続けられるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

肝臓内科

Hepatology

肝臓病センター部長 佐藤丈頭

当科では、佐藤丈頭部長、國吉政美医長、荒武良総医長の3名の肝臓専門医が診療を担当しています。昨年4月より、九州医療センター医長であった荒武良総が加わり、これまで以上に充実した診療体制となりました。いずれも豊富な臨床経験を有し、肝疾患全般に対して専門的かつ包括的な診療を行っています。外来は月曜日から金曜日まで毎日開設しており、地域の先生方からのご紹介に迅速に対応できる体制を整えています。

ウイルス性肝炎については、C型肝炎では直接作用型抗ウイルス薬（DAA）により、8～12週間の内服治療で高率にウイルス排除が可能となりました。高齢者や合併症を有する患者さんにも安全に治療が可能です。また、B型肝炎では、症例ごとに核酸アナログ製剤の適応を適切に判断し、抗ウイルス療法により肝炎の進行や肝硬変・肝細胞癌への進展抑制に努めています。

肝硬変に対しては、腹水、肝性脳症、食道・胃静脈瘤などの合併症の予防と治療に積極的に取り組み、予後の改善と生活の質の維持・向上を目指しています。また、肝細胞癌に対しては、ラジオ波焼灼療法、肝動脈塞栓療法、薬物療法などを適切に組み合わせ、外科や放射線科と連携した集学的治療を行っています。近年は分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬による治療も積極的に導入しています。

さらに、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、代謝関連脂肪性肝疾患（MASLD）などの慢性肝疾患や、原因不明の肝機能障害の精査・治療にも幅広く対応しています。今後も地域医療機関との連携を大切にし、専門性の高い肝臓診療を通じて地域医療に貢献してまいります。肝疾患が疑われる症例がございましたら、どうぞお気軽にご紹介ください。



メンバー紹介

- | | | |
|------|-------------|-------------|
| 佐藤丈頭 | (昭和63年卒) 部長 | (外来日：月、火、水) |
| 國吉政美 | (平成7年卒) 医長 | (外来日：木、金) |
| 荒武良総 | (平成11年卒) 医長 | (外来日：月、金) |

令和 8 年度医師異動（4/1～）

診療科名	退職者名	後任者名	よみ
小児科	山口 定信	中野 剛希	なかの ごうき
	徳富 夏奈子	上能 巧真	じょうの たくま
	瀨口 貴弘	徳永 希望	とくなが のぞみ
	松永 千恵	福田 登志	ふくだ とし
		園田 理沙	そのだ りさ
		阿部 慈	あべ しげる
小児泌尿器科	生野 猛		
循環器科	鈴木 哲	有村 賢一	ありむら けんいち
放射線科	田原 健三郎	佐野 淳徳	さの あつし
眼科	海津 嘉弘	小西 珠生	こにし たまき
	松井 孝介	梶川 悟	かじかわ さとる
産婦人科	森岡 将来	内田 敬晃	うちだ ひろあきら
	藤川 梨恵		
	牛島 崇	吉川 秀昭	よしかわ ひであき
	光山 丈彦	片岡 亮	かたおか りょう
	竹内 一輝	原 健博	はら たけひろ
	吉川 秀昭	川崎 由紀菜	かわさき ゆきな
	竹内 敬祐	藤岡 ゆい	ふじおか ゆい
	仲 碧子	玉木 ちはる	たまき ちはる
		藤川 梨恵	ふじかわ りえ
		竹内 一輝	たけうち かずき
整形外科	八木 宏樹	星子 圭介	ほしこ けいすけ
	中尾 允哉	稲富 健	いなとみ けん
精神科	古賀 美紗樹	高木 佑真	たかぎ ゆうま
	大喜多 洋	岩田 凌花	いわた りょうか
	上野 桃	畑田 祐美	はただ ゆみ
皮膚科	酒井 雛子	古賀 早紀子	こが さきこ
内科	上中 玲奈	赤松 志保	あかまつ しほ
	戸高 悠	戸高 悠	とだか ゆう



診療科	月	火	水	木	金	備考
内科一般（新患） 【内線 264】	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	新患担当は、内科系医師の交代制です。
肝臓内科 【内線 208】	佐藤 文顕 荒武 良総	佐藤 文顕	佐藤 文顕	國吉 政美	國吉 政美 荒武 良総	
血液内科 【内線 208】	武藤 敏孝	高月 浩	武藤 敏孝	高月 浩		※血液内科について下記欄外参照ください。
糖尿病・内分泌 代謝内科 【内線 264】	加来 真理子 林 加野 戸高 悠	加来 真理子 今蘭 直博 赤松 志保	加来 真理子 林 加野 赤松 志保	加来 真理子 林 加野	今蘭 直博 戸高 悠	
呼吸器内科 【内線 208】	休診					
循環器内科 【内線 202】		有村 賢一	有村 賢一		◆	新患：連携室へ事前相談 (急患不可) ◆他院より派遣医師
消化器内科 【内線 205】	河邊 顕	村尾 寛之 林 康代	河邊 顕 林 康代	村尾 寛之 林 康代	河邊 顕 村尾 寛之	痔疾患は河邊医師が担当。
消化器・一般外科 【内線 205】	鈴木 宏往	田辺 嘉高 山田 裕	田辺 嘉高 田邊 麗子	鈴木 宏往 堤 宏介	田邊 麗子	
乳腺外科 【内線 205】	堤 宏介	轟木 秀一 山田 裕	◇予約のみ	轟木 秀一	轟木 秀一	◇印 予約のみ
整形外科	深川 真吾 長谷川 晃大 星子 圭介	稲富 健	深川 真吾 長谷川 晃大 星子 圭介	星子 圭介	深川 真吾 長谷川 晃大 稲富 健	
小児科（午前） 【内線 209】	◇※牧村 美佳 ※安成 大輔 ◇※古賀 大貴 中嶋 敏紀	△安成 大輔 ※米良 智子 多久 葵 ★渡辺 恭子 中嶋 敏紀 ★緒方 怜奈	◇牧村 美佳 中野 剛希 河原 典子 ○大野 拓郎 ●安永 由紀恵 ◇九大より派遣 (第2・4週)	米良 智子 河原 典子 ※牧村 美佳 ★※緒方 怜奈 中尾 泰介	○大野 拓郎 河原 典子 ※多久 葵 ○古賀 大貴 ★渡辺 恭子 ★緒方 怜奈 ★安永由紀恵	○循環器外来（予約制） △アレルギー外来（予約制） ★神経外来（予約制） ◇内分泌外来（予約制） □新生児外来（予約制） ※初診のみ ●予約制 専門外来新患は要電話予約 (9:00～14:30 電話受付) 詳しくは病院ホームページ
小児科（午後） 【内線 209】	1か月健診 中嶋 敏紀 ○※古賀 大貴 山喜多 悠一	※△安成大輔 中嶋 敏紀 ◇多久 葵 藤川 諒太 ★渡辺 恭子 ★緒方 怜奈	◇牧村 美佳 倉田 浩昭 湯浅 千春 ○大野 拓郎 ★九大より派遣 (第3週)	1か月健診 中嶋 敏紀 川上 勲 山喜多 悠一 (第1・2・4週) ★緒方 怜奈	△米良 智子 倉田 浩昭 湯浅 千春 ○古賀 大貴 ★渡辺 恭子 ★緒方 怜奈 ★安永由紀恵	
小児外科 【内線 209】	[手術日] (急患のみ可)	中村 晶俊 生野久美子 橋本 佳子	[手術日] (急患のみ可)	中村 晶俊 生野久美子 橋本 佳子	中村 晶俊 生野久美子 橋本 佳子	急患は随時対応
産科・婦人科 【内線 204】	*川上 浩介 河村 京子 石橋 弘樹 中並 弥生 堀 洋暢 吉川 秀昭 片岡 亮	*川越 秀洋 北川 麻里江 中並 弥生 堀 洋暢 原 健博 牟田 満 [手術日]	*川上 浩介 徳田 諭道 河村 京子 石橋 弘樹 堀 洋暢 内田 敬晃	*川越 秀洋 北川 麻里江 堀 洋暢 内田 敬晃 原 健博 牟田 満 熊谷 晴介	*川上 浩介 徳田 諭道 北川 麻里江 堀 洋暢 吉川 秀昭 片岡 亮 [手術日]	*印 新患担当 新患は紹介患者様のみ
泌尿器科 【内線 213】	◆	[休診]	[休診]	◆	◆	◆他院より派遣医師
皮膚科 【内線 8080】	土井 和子 古賀 早紀子	土井 和子 古賀 早紀子	土井 和子 古賀 早紀子	土井 和子 古賀 早紀子	土井 和子 古賀 早紀子	
眼科 【内線 212】	能美 典正 小西 珠生 梶川 悟	梶川 悟 小西 珠生 [手術日]	宮城 美智子 小西 珠生 梶川 悟	能美 典正 担当医 [手術日]	能美 典正 小西 珠生 梶川 悟	新患：連携室へ事前予約 急患は事前相談を 火・木は10:00で受付終了
精神科	*磯村 周一 今村 眞帆 江夏 真一郎 畑田 祐美	*権藤 知子 今村 眞帆 江夏 真一郎 高木 佑真	*江夏 真一郎 磯村 周一 今村 眞帆 権藤 知子	*岩田 凌花 磯村 周一 権藤 知子	*高木 佑真 磯村 周一 権藤 知子 岩田 凌花	*印 新患担当 新患は要電話予約 (9:00～14:30 電話受付)
放射線科 【内線 231】	野見山 弘行	野見山 弘行 今福 輝 (午後)	野見山 弘行	野見山 弘行	野見山 弘行 高木 正統 (午前)	
耳鼻咽喉科 【内線 8320】	[休診]	◆	[休診]	[休診]	◆	◆九大より派遣医師
消化管内視鏡 【内線 379】	村尾 寛之 林 康代	河邊 顕	村尾 寛之	河邊 顕 佐藤 文顕 荒武 良総	林 康代	

注：受付時間：午前8：30～11：00（急患については、この限りではありません）

注：不在の場合は担当医が変更になることがあります。

注：詳しくは、病院ホームページをご覧ください。

注：血液内科診療につきまして、診療体制の都合上、新規の紹介患者様の受け入れに、ご迷惑をおかけする場合があります。